

〔草勢管理技術の改善による夏果菜の高品質化〕

黄化葉巻病抵抗性トマト品種の高品質化

～（２）セル苗直接定植が抵抗性品種「アニモ TY-12」の生育に及ぼす影響～

海保富士男・沼尻勝人・野口 貴

（園芸技術科）

【要 約】「アニモ TY-12」の抑制栽培で果実肥大を図るためセル苗を直接定植する場合、草勢を適正に管理するための指標としては、開花花房（２花）から成長点までの長さ 15 cm程度と考える。なお、追肥や液肥による草勢管理を行うときは、この値を目安に行う。

【目 的】

前報では、裂果が少なく可販収量の高い抵抗性品種「アニモ TY-12」について、セル苗直接定植で強めの草勢を適切に管理して果実肥大を図るため、セル苗直接定植が収量に及ぼす影響を調べた。本報では、セル苗直接定植が生育に及ぼす影響をポット苗と比較検討し、セル苗直接定植における適正な草勢管理の指標となる生育の値を明らかにする。

【方 法】

「TY-12」を 2014 年 6 月 2 日に 128 穴セルトレイに播種した。定植は、セル苗を 6 月 29 日に直接定植した区と、10.5cm ポットで 2 次育苗した苗を 7 月 10 日に定植した区を設けた。施肥方法は、ポット苗では慣行施用、セル苗では慣行施用に加え肥効調節施用および液肥施用の区を設けた。1 区 5 株の 4 連性とし、7 段花房まで開花時に生育調査を行った。

【成果の概要】

1. 草勢管理の指標と考える生育の値として、開花花房から成長点までの長さ、開花花房とその下の花房間の莖長、開花花房直下葉の莖径および開花花房直下葉の葉長などがある。各段 1～2 花開花時に測定した結果、花房間の莖長（図 1 B）はセル苗とポット苗で各段とも差がなかった。それ以外の成長点までの長さ（図 1 A）は 1～2 段、莖径（図 1 C）と葉長（図 1 D）は 1～6 段で、セル苗がポット苗より大きかった。特に 1 段でポット苗との値の差が大きく、段位が上がると差が小さくなり、7 段では差がなかった。
2. 施肥方法をみると、施肥方法による生育の値に差はないが、そのなかで 1～4 段開花時の肥効調節区の成長点までの長さや莖径がやや大きい傾向がみられた（図 1 A, C）。
3. 収穫終了時の生育みると、草丈には差がなかった（図 2 A）。莖径は、1 段果房直下葉でセル苗がポット苗より大きかったが（図 2 B）、果房段位が上がるとポット苗との差がなかった（図 2 C, D）。また、セル苗定植で施肥方法による差はみられなかった。
4. 前報では、セル苗とポット苗ともに段ごとの収穫数と 1 果重は、1～2 段で大きく、3～4 段で小さくなり、5 段で再び大きくなる傾向がみられた。今回測定した生育の値のなかで、成長点までの長さが 1 段、2 段、4 段で他区より大きく、収穫果数と 1 果重と同様な傾向を示した（図 1 A）。また、セル苗の収量や 1 果重がポット苗より大きくなった 1～2 段では、成長点までの長さがセル苗の値がポット苗より大きくなった。
5. まとめ:「アニモ TY-12」の抑制栽培で果実肥大を図るためセル苗を直接定植する場合、適正な草勢管理の指標は花房（２花開花）から成長点までの長さ 15 cm程度と考える。なお、追肥や液肥による草勢管理を行うときは、これらの値を目安にする。

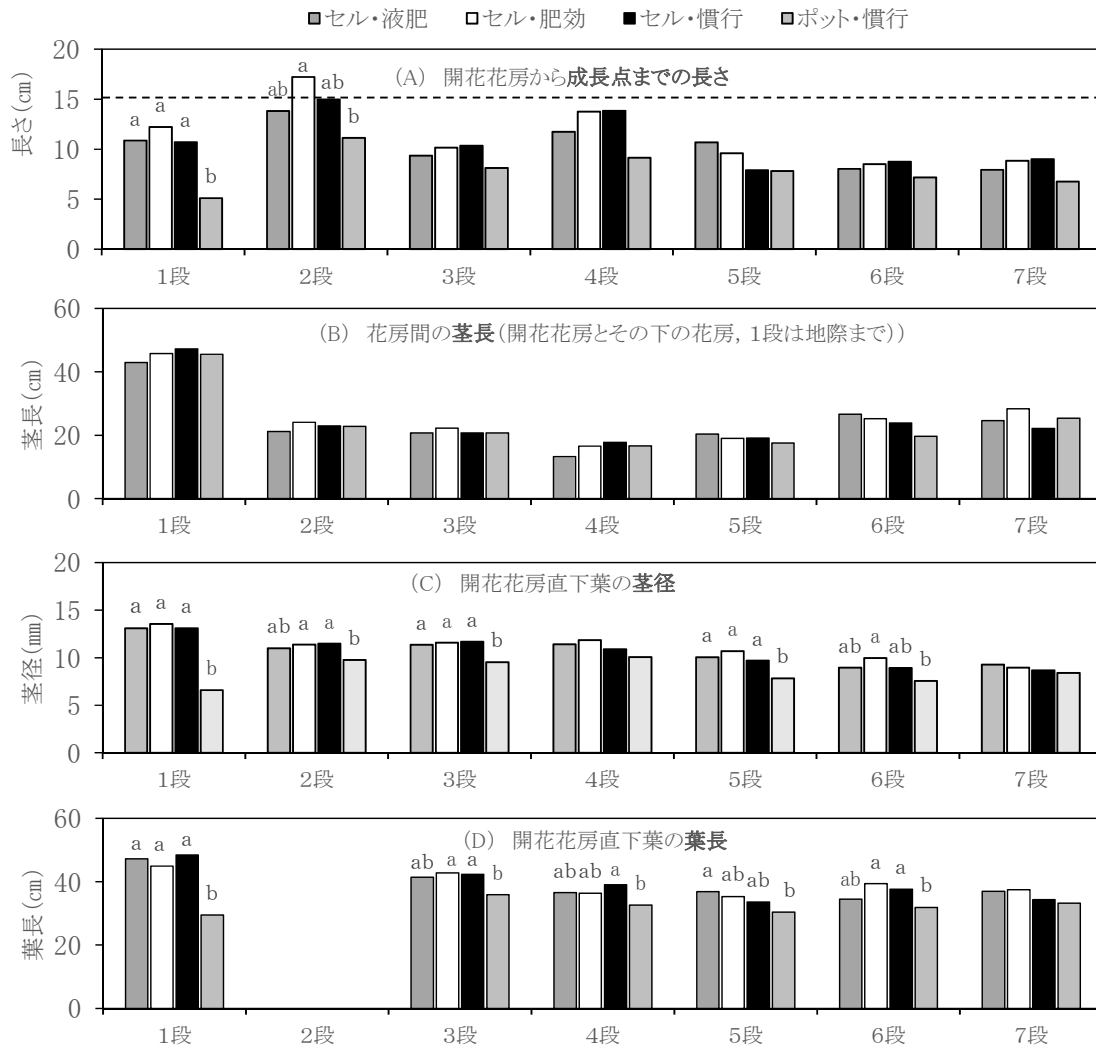


図1 育苗および施肥方法が生育に及ぼす影響 (各花房1~2花開花時)
同一果房段で果数および1果重の異なる文字間にはTukey法により5%水準で有意差あり

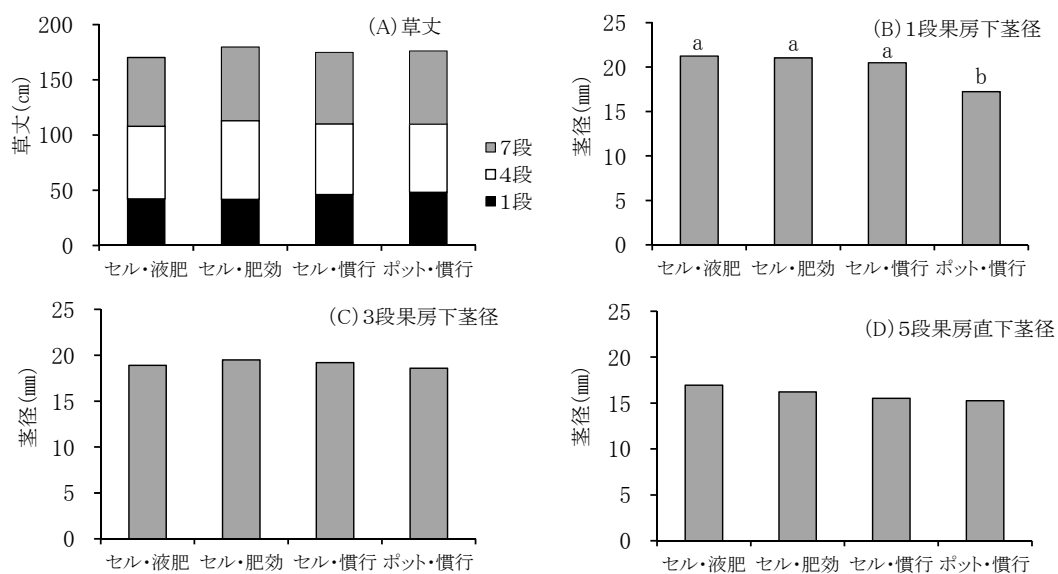


図2 育苗および施肥方法が生育に及ぼす影響 (収穫終了時)
異なる文字間にはTukey法により5%水準で有意差あり